



おれんげニュース

No 2 4 3

2010年6月号

お鉢まわりも無事終えてみあげる由布岳 4月29日

★集会・委員会・行事関係のお知らせ★				★山行の一步は会合から★		
	6月			7月		
運営委員会	8日(火)	19:30~22:00	西諫早公民館	13日(火)	19:30~22:00	西諫早公民館
ひまわり集会	4日(金)	13:30~15:30	西諫早公民館	2日(金)	13:30~15:30	西諫早公民館
全体集会	22日(火)	19:00~22:00	西諫早公民館	27日(火)	19:00~22:00	西諫早公民館



由布岳のサクラソウちょうど満開エヒメアヤメも！！



雨の中でもしっかりストレッチ太極拳みたい



雨にあるけば～♪♪



まずは鷹取山につきました。



夏目漱石の句と一体になってみました。



ムラサキケマン



銀霊草



オオイヌノフグリ



ハルリンドウ





6月の山行計画

部	自然保護部	山行部	技術研修部	ひまわり山行部
月 日	6日(日)	13日(日)	20日(日)	25日(金)
山 名 (行 事)	クリーンハイク 土師野尾ダム	九重山群 扇ヶ鼻 1698m 肥前ヶ城 1685m	根子岳東峰 ヤカタガウドルート (1408.1m)	鎮西山 (200m)
地 図	諫早南部	湯坪・久住山	根子岳	中原
集 合 出 発	JR西諫早駅 9:00	JR諫早駅 6:00 JR 西諫早駅 6:10	JR諫早駅裏 6:00 JR西諫早駅 6:10	JR西諫早駅 8:00
帰 着 時 間	14:00 頃	20:00 頃	20:00 頃	16:00 頃
歩 行 時 間	4. 5時間程度	6時間程度	6時間程度	3 時間程度 (12km 程度)
難 易 度	初心者	初心者	やや健脚むき	初心者
交 通 手 段	マイカー	マイクロバス	マイクロバス	マイカー
宿 泊 施 設	日帰り	日帰り	日帰り	日帰り
温 泉	なし	有り	有り	有り
参 加 費		5000 円	5,000 円	1500 円程度
申 込 期 限		満員になりしだい	満員になりしだい	満員になりしだい
集 約	中村	田中	佐原	江崎
備 考	火ばさみ・弁当 持参 持ってる人はロ ープ、ハーネス 等も	ミヤマキリシマ ドウダンツツジ 鑑賞登山	九州で一番美しい オオヤマレンゲを 見に行く	鎮西八郎為朝 に由来する山
感 想 提 出	6/13(日)まで	6/22(火)まで	6/30(水)まで	7/10(土)まで

ニュース

さる4月18日(日)多良岳県立公園黒木登山口山開き式が行われました。多良のお山を愛する有志連でとりおこなわれ、オレンジハイキングクラブからは、川原氏、坂口氏、下釜さん、山下が参列しました。お祓い、祝詞、玉串奉奠の神事が執り行われた後大村市消防団長や黒木町町内会長の方達から安全登山へのお願いの言葉をいただきました。登山者の一員としてマナーを守り、安全に心掛けて多良岳を楽しみたいと思いました。





7月の山行計画

部	技術研修部	ひまわり山行部	山行部&技術研修部
月 日	10日(土)	23日(金)	25日(日)
山 名	郡岳～経ヶ岳縦走	土器山(430m)・日ノ隈山(148m)	井原山(983m)
地 図	多良岳	広滝・佐賀北部	雷山・脊振山
集 合 場 所	JR西諫早 6:10	JR西諫早駅 7:00	JR諫早駅 7:00 JR西諫早 7:10
帰 着 時 間	19:30	18:00	18:30
歩 行 時 間	8時間程度	3.5 時間	5時間程度
難 易 度	中級	初級	初級&中級
交 通 手 段	マイカー	マイカー	マイクロバス
宿 泊 施 設	日帰り	日帰り	日帰り
温 泉	なし	なし	有り
参 加 費	ガソリン代 運転手手当等	ガソリン代 運転手手当等	4000 円
申 込 期 限	満員になり次第	満員になり次第	満員になり次第
	佐原	江崎	田中
備 考	これからの山にむけて 体力をつけるその 1	腹切り岩、親不孝岩 などあっておもしろい	技術研修部と合同 沢登コースとオオキツネノカミ ソリを見るコース
感 想 提 出	7/17(土)	7/27(火)	8/3(火)

技術研修部より

- 5月23日(日) セルフレスキュー(JR 西諫早駅 9:30 集合)
 5月27日(木) 岩登り (JR 西諫早駅 9:00 集合)
- 6月17日(木) 岩登り(JR 西諫早駅9:00集合)
 6月27日(日) セルフレスキュー(JR 西諫早駅 9:30 集合)
- 7月1日(木) 沢登り(JR 西諫早駅9:00集合)
 7月31日(土) セルフレスキュー(JR 西諫早駅 9:30 集合)





カルチャー山の会の代表、塩田幸助さんから水彩画展の案内をいただきました。書面をもって案内いたします。



ひかげつつじ 雁俣頂上にて

川・山・自然を描く

塩田幸助 水彩画展



2010年5月28日(金)～6月1日(火)

午前10時～午後7時(最終日は午後5時まで)
コクラヤギャラリー4F (長崎市万屋町1-26)

山登りを始めて57年になります。

その中で山や自然と出合った風景、

心に残る風景に感動し、それを絵に描いています。

ご多忙中とは存じますが、

ぜひ足をお運びいただきますようお願い申し上げます。

※5月29日(土)18:55 NBCにてTV紹介

連絡先: 長崎市長小島5-11



4月・5月の山行報告

4月11日(日)

鷹取山 発心山 耳納山 高良山

(参加者) 川原 篠原 小山 林田 佐原 金丸(な) 松園 鎌水 田中(し)
山下 川内 坂本(み) 松尾(と) 兵庫 林

(行程) 7:10 西諫早駅発-9:05 平原登山口-鷹取山 11:30-発心山 11:55
-12:00 昼食-13:00 耳納山 14:50 高良山-
久留米お風呂 17:00-西諫早駅



平原登山口から最初の目的地鷹取山へ向かう、最初から急登、淡いピンクのしゃくなげ、白どうだんが迎えてくれる。今にも降りそうな空模様。ガスがかかり見通しがきかない中をもくもくと歩く。

やっと頂上に着く。山城の跡とかで広いが残念ながらまったく視界が利かない。下ってちょっとバスで走って発心山へ。5分ぐらい登るとす

ぐ頂上。ここで昼食。

夏目漱石の句碑を道を間違え行きつ戻りつしながら四箇所たずねた。

皆、春の句だった。ここで思い思いに写真を撮る。

銀りょう草 春リンドウ すみれなどが咲いていた。

山野草は小さくて地味で一生懸命に咲いていてけなげな感じがする。

耳納山高良山と行く頃には空も晴れて天気も回復してきた。新緑が目にしみる。

久留米でゆっくり温泉に入り、さっぱりとなって疲れも取れて楽しい一日でした。

皆さんお世話になりました。

(林 孝子)



4月16日(金)

天草矢筈岳

(参加者) 小山 佐藤 岩永(さ) 小島 坂本 佐原 高橋
中村 森(ま) 山口 藤崎 (11名)

西諫早7:30 参加者11名、2台の車で出発。

「天草四郎の足跡を歩いて」に惹かれ、久しぶりの参加です。4月とは思えない寒さが続いていたのに今日は穏やかな春の陽気で、ウォーキングには最高のお天気になりました。

口之津港9:45のフェリーに乗り、鬼池港10:15着。港から5~6分位走った所で車を降り、まず足慣らしにと、小山先生の案内で近くの丘にあるお墓を尋ねる。天草四郎ゆかりの史跡?と、坂道をしばらく登って行く。海を見下ろす丘の上の広い墓地には、時の流れを感じさせる古く大きな石塔が建っており、「文化財 豪商 小山本家の墓」の案内が立てられている。ここは小山先生のルーツ、ご先祖様のお墓でした。

山の新緑と、まばゆく輝く海、早くも田植えが終わった田んぼ、葉タバコ畑等、のんびり眺めながら海岸線から車は山道に入る。天草は低い山が連なっていて、同じような景色の中を車は登ったり下ったり、目的の矢筈岳はどの山?と少し心配になる。やがて人家が途切れ、田んぼが広がり山が近くに見える場所で車を降りる。「どうも あれが矢筈岳だろう」という事で小山先生、登山口を偵察に。時間も丁度お昼時、ここで昼食タイムとなる。

たけのこの煮物やいろいろなご馳走が次々に回ってきて、楽しく食事を済ませます。

さあ、いよいよ登山開始。登山口まではかなり有りそうなので、そこまでは車で行こうと佐原さんの提案で、いざ出発!。杉林の細い山道をクネクネ登るが登山口らしき所は見あたらない。随分と登って来て1軒の人家あり、こんな所にも人が住んでいるのかと感心。

さらに登りつめた所で広い車道に出、人家もちらほら。山を尋ねた住人の方も分からないとのこと。ひとまず下りることに。



結局、矢筈岳には行き着くことなく港に直行。一方、車内は終始笑い声絶えなくにぎやかで、足を使わなかった分、皆さんお腹の筋力を多に使って本当によく笑い、和やかで楽しいドライブ旅行になりました。鬼池港14:15のフェリーに乗り、口ノ津に着いて小浜温泉組と諫早直行組に分かれ、予定より随分早く帰宅することができました。運転、お疲れ様でした。ありがとうございました。



藤崎綾子

4月24日

雁俣山 (1315m)

(参加者) (CL) 川原・森(寿)・森下・下釜・中野
(SL) 佐原・鎗水・小山・山本

(感想)



家を出る時、パラパラと来た雨も、西諫早では降っていないで一安心。9名の参加者でジャンボタクシーで行って来ましたが快適でした。

西諫早を出発し嬉野を過ぎた頃、大ハプニング発生！メンバーの一人を途中乗せ忘れ、車中は大騒ぎとなりましたが、いつものドライバーさんだったので無事にそのメンバーを乗せ、大きな時間のロスも無く再出発となりました。九州自動車道を走り松橋ICを下りて走る中に美里町とありました。

川の上ではコイノボリが泳ぎ、左手に見えた二子橋の話や美里町や中央町と研用町が一つになった等と車窓から見える風景の説明を聞いているうちに、カーブの多い登坂に入って行きました。

新緑の美しい中を走り、きれいな水の流れを見ながら、川原さんから前には良くキツネを見かけた場所や、秋の紅葉がとてもきれいな事など聞きました。

雁俣山が初めての私はいつかまた来たら良いなあと思っていると、川原さんが「前方が雁俣山です！」と言われるので目を向けると、とてもやさしい感じの山が目にとまりました。

しばらく走ると二本杉峠登山口に10時15分到着、車を降りるとミツバチやシャクナゲの花が私たちを迎えてくれました。

10時30分出発、新緑の中を歩くうちに二手に分かれたところで一休み、ここで別の方へ道があるようで黒原と書いてあり、二戸だけの部落があるとの事でビックリ！！

まさか「いま来た道だけでは？」と言うと、別に道があると聞いてそうよねやっぱり・・・と思いました。

左へ行くと西側カタクリ谷ルートとなり歩きやすいゆるい道で、ふと道上の斜面を見るとカタクリの花が咲いており皆さ



ん大喜び！！結構花は見れたのですが、天気が曇りがちで大好きな花はうつむきかげん……。何個か開きかけの花があったのですが、ちょっと残念だなあと思いながら曇りがちな空を見上げたのでした。

その時「4年前に来た時は、もっと沢山花があったのになあ」と誰かが言い、よく見てみると斜面に動物の足跡のような形がいくつかあり、シカかイノシシが食べに来るのでは？という話になりました。私はもっともって増えて私達を楽しませてねと心の中で願いながら先へ行くと、他のグループの方たちが「白花ネコの日、黄花ネコの日」と虫眼鏡で白や黄色の小さい花を見ておられました。

にぎやかな中を通り過ぎると、途中から段々と急坂になり上を見るとずうっと人が並んで登っていました。私達も一段一段ゆっくり登り、やっと頂上へ着きました。

頂上はあまり広い場所ではなく、他のグループも居ましたが一応昼食をとる事が出来ました。

ミツバツツジや黄色（サンシュの花に似ている）の花、アブラチャン等を見ながらおにぎりをパクつき、おかずに美味しく煮たツワの煮物やフルーツをいただきおなかも満腹となりました。

12時30分下山開始、帰りは登りとは別コースで着いた場所はカタクリ谷コースの入り口でした。

40分程で二本杉峠に着き、早々にバスで雁俣の湯へ。ゆっくり時間があるので1時間休憩して良いことになり、ゆっくり、のんびり、ちょっとヌルっとするお湯に浸かり心身ともにリフレッシュ出来ました。

15時頃には全員集合し早めの出発。後はいつものように、にぎやかで楽しいバスの中。途中、川登SAで止まり、東彼で川原さんと佐原さんに別れを告げ、18時に西諫早到着。カタクリのパッと上向きかげんの花には出合えなかったけど楽しい山行きでした。皆様お世話になりました。お疲れさまでした。（山本久美子）

4月29日(木)

由布岳 (1583.3m)

(参加者) 川原、中村、川内、林田、下釜、兵庫、鎗水、岩永(幸)、森(寿)、松園、坂口、田中(静)、國分、山下、中里、土井(外)

(行程) 西諫早駅 6:10=由布 IC9:00=正面登山口 9:30=由布岳東峰 11:45

(感想) 憧れの由布岳に、ついに登れました \(\wedge\wedge)/



前夜の雨にハラハラさせられ、初参加となる登山にドキドキしていたせいか、当日はなんと早朝四時に目が覚め、雨が落ちていないのを確かめていました。まるで遠足前の子どものように嬉しかったですね。一人で朝食を済ませ、6時前には西諫早駅前に着きましたが皆さん既に集まっておられ、気さくにそして自然な感じで挨拶をしてくださる地図を渡していただきました。その構えない姿に救われ心やすらぎました。座席を決めるのにも気を遣う自由席の貸し切りバスでしたが、空いてる席もさほどなかったためスムーズに顔見知りのY氏の隣に座らせていただきました。話しかけやすく入りやすい雰囲気

一安心でした。

車中は、装備や訓練そして山の素晴らしさなど私にとっての研修の場であり、オレンジのメンバーの仲の良さや人柄の発見の場でもありました。一気に、仲間の一人になったかのような気安さを覚えたものです。湯布院で高速をおりると雄大で雨に洗われた緑が美しい高原の中を走り、絶叫大会で有名な丘を抜けると豊後富士と呼ばれる素晴らしい姿の由布岳の全景が目に入りました。息子が大分に在住していた5年間、何度となく通過し素晴らしい眺めに憧れ、いつかは登りたいと願っていた由布岳です。この春オレンジ・ハイキングクラブに加入させて頂き、初めて参加した山行が憧れの由布岳とは、何かの因縁かも知れませんね。先ず、中・上級クラスの東登山口、次いでゆっくりコースの正面登山口での下車となりました。いつかは、中・上級クラスのコースも登ってみたいなあという願望を抱かせるこのクラス分けは、足に自信がなく鍛錬もしていない私にとってピッタリのものでした。と、思ったのも束の間、甘い考えだったことに気づかされました。



9時20分に準備運動をする広場まで、先ず向かいましょと進まれたスピードの速いこと！息が上がり胸が苦しくなり、これは附いていけない！これでは断念するしかない！と本気で考えていた矢先、広場に着きました。一息入れ、ラジオ体操で体をほぐした後、先頭を歩く人の指名があり、9時30分になだらかな登山道を歩き始めました。ミツバツツジの鮮やかな色やスマレの可憐な色を見つけながらの登りは快適で、10時10分の休憩はアツという間にきました。一息入れ、水分補給をして出発してからも叡山スマレの黄色を数えたり、花の名前や山の名前を教わりながらの快適な山登りでした。またえ近くになると急な坂や岩場があり、登山という印象が強くなりヘトヘトの体と空腹にむち打って登り続けると、東峰と西峰の分かれ道であるまたえに着きました。ここからまた、岩場を苦労して登ると東峰でした。千五百メートルを超える山への登山は始めてで、その眺望の良さと風の強さと冷たさを痛感しました。標柱を真ん中にしての記念撮影もそこそこに、空腹と疲れでヨロヨロの足を用心深く運びながらまたえまで降りて、待望の弁当を広げました。あったかいお湯でインスタントラーメンを食していらっしやる方もあり、寒さの頂上ではもってこいの献立だと感心したり羨ましがったりしました。この後、鎖場を通過して西峰まで向かわれた方々がいらっしやったのには驚き、さすがに先輩だと感心しました。



登りは必死だったからでしょうか、あまり長いとは感じなかったのですが、おなじ道の帰りは、まだかまだか、間違っていないか、と思うほどのダラダラ下りで少々あるき疲れましたが、麓で見つけた丈の短いエヒメアヤメの美しさと可憐なサクラソウの群生の見事さに、癒されました。ゆっくりと、十分に堪能していると、お鉢まわりをされた中・上級クラスの方々も下山されました。時間の関係で、温泉入浴は中止ということになりましたが、焼酎蔵巡りは実施され、試飲や購入で賑わいました。Y氏の初恋？の人が女将さんとかで、次のクラス会では話しかけられるかも…と喜んでいらっしやるようでした。アルコールが入ったためか、全員が無事に下山した安堵感からか、会計係の方のお骨折りもあり、諫早に着くまでの車

中は和気藹々の和やかなもので、時間を忘れさせるものでした。歌う者、語る者、眠る者…それぞれの過ごし方を認め合う大人の至福の時間でした。私もこの雰囲気や博学多才な話のオンパレードが好きになり、日々の鍛錬を積み重ねて多くの山行に参加できるようになろうと考えを固めた車中でした。オレンジ・ハイキングクラブの皆さん、大変お世話になりました。ありがとうございました。今度は、装備もきちんと用意して参加したいと思います。(中里利行)

5月2日(日)～3日(月)

長尾山(680.1m)・本仏石(670m) 藺牟田池外輪山(最高点片城山 508.8m)

<参加者> 川原 佐原 中須賀 福岡 山下 松園 田中(静) 浦田 松尾(と)
岩永清(元) 桶口(元) 計11名

<行程> 1日目 = J R西諫早駅 6:10→横川 I C 10:22→薬草の森緑化センター 10:50
→南登山口 11:30→長尾山 12:05(昼食)→本仏石 13:00→林道出会 14:00→森林学
習展示館 14:20→蒲生大楠 15:20→藺牟田池 16:00

2日目 = 愛宕山登山口 8:27→愛宕山 8:52→舟見岳 9:17→竜石 9:52→山王岳 10:30
→片城山 11:00→飯盛山 12:05(昼食)→(下山後藺牟田温泉入浴) 13:45 出発→諫早
着 19:10

<感想>

ゴールデンウィーク真っ只中の山行で、車の混雑が心配されたが、久留米と熊本近郊でちょっとした渋滞にあった他は順調に進み、予定通り11時30分には長尾山登山口をスタートした。小雨模様になったので雨具を装着したが、たいした降りにはならず、すぐ薄日も射してきた。うっそうとした樹林の中の急登を15分くらい歩くと尾根上に出、続く緩やかな登りを20分ほどで山頂に着いた。木造の展望台には鹿児島湾や霧島山系に至る大パノラマが待っていた。



展望を楽しみ昼食をとった後本仏石に向かう。急な下りをロープにつかまって下り、登り返すと仏石と本仏石の分岐に出た。本仏石の方向に進むと左に林道へ下る道があり、そのまま直進してロープが張られた急な登り下りを3回ばかり繰り返すと本仏石の山頂に着いた。最初は健脚班とゆっくり班に分かれて別行動の予定であったが、今回は全員が頑張って登坂した。下山は井上ドライバーが待っている林道出合いに下りる。

藺牟田池に向かう途中、県民の森「巨木の館」に寄り、平成2年の大阪花と緑の博覧会に出展された樹齢1000年という屋久杉の倒木を見学、その大きさに圧倒される。

巨木ツアーではないが、通り道ということで蒲生神社の日本一の大楠も見学。こちらは樹齢1500年だそうである。樹齢を聞いただけではぴんときないが、聖徳太子や紫式部が生きていた頃誕生した樹木となると、想像するだけでなんだか面白い。

藺牟田池には16時前に着いた。管理事務所で鍵を受け取り、バンガローへ荷物を運び入れてから温泉へ・・・福岡氏は汗をかいてないからと留守役を申し出たが、風呂から帰って来ると、鹿児島ラリーグラスの松元さんが持参した豚汁で、杯を傾けていた。

18時頃からすき焼きの夕食が始まる。アルコールが入ると山下さんが作ってきた歌集が活躍した。松元さんは翌日仕事だそうで、楽しく懇談した後帰って行かれた。



豚汁鍋を抱え、鹿児島市内からわざわざ1時間もかけて訪ねて下さり、山仲間の暖かさを思い知る。井上ドライバーから「そがん会がどこにあるですか、オレンジだからじゃないですか?」と言われた言葉がほろ酔い気味の頭に残った。

二日目晴天。早朝の藺牟田池は濃い朝霧がかかり幻想的である。佐原さんの指揮の下朝食を済ませ8時に小屋を出る。朝方によく見つかるという「ベッコウトンボ」をまず探しに行く。山王岳の下あたり、大きな別荘が建っている前のれんげ畑に・・・いた!!

何匹もスイスイ飛んでいる。国内希少野生動植物に指定され、最近では少なくなっていると聴いていたので、多分見つからないだろうと思っていたが、嬉しい誤算であった。

今日は健脚班とゆっくり班に分かれて外輪山を回ることにする。藺牟田池駐車場から右回りでスタートした。ゆっくり班は3つ目の竜石から登るので車で先に進む。どこからでも登って下れるのがこの山の人気らしい。藺牟田池を取り囲む周囲7キロの外輪山には6つの山がある。標高は500m前後であるが尾根歩きではなく1山ずつ登って下らなければならない。愛宕山には25分で着いた。舟見岳は下りを注意するよう言われていたが、1月の偵察時には未整備だった急坂に、丸太の段が整備されていて難なく下ることが出来た。松尾さんが数えていたが、2000・・・段という声が聞こえた。

一旦道路に出て登り直した竜石は、御神体の巨岩にしめ縄がかけられていた。竜石を見た男女は相愛のカップルになるという。我々壮老年の男女にはあまり関係なさそうなので、眺望を楽しんでさっさと下る。

また道路に出た後、次の山王岳に向かう。途中ちょっとした道迷いをしたが、福岡氏の修正でロスタイムはわずかで済む。「何か変だなと思ったら引き返す」、これは鉄則のようであるが、なかなか失敗が身につかないところが山登りの難しさかもしれない。

外輪山で最も高い片城山は岩登りが待っていた。下りも岩場が多い。高い山々ではないのに表情は多彩である。途中から緩やかな下りで、九州自然歩道の山道は歩き易い。昨日入浴した宿泊施設の脇に出た。いよいよ最後の飯盛山である。この山は頂上まで道が舗装されていた。渦巻き状の遊歩道を登ること30分、ゆっくり班が待つ展望広場に到着した。

竜石で30分先行していたゆっくり班には最後まで追いつけなかった。佐原さん、岩永さんの健脚には脱帽。お見事である。

一周してきた外輪山はもとより霧島の山々も良く見える。最高のロケーションを楽しみながら昼食を摂った。

藺牟田池近郊には温泉もたくさんあるらしいが、帰りの交通事情を考慮して、昨日と同じ温泉で汗を流して帰ることになる。

心配していたほどの渋滞には巻き込まれず、19時10分まだ明るいうちに諫早に着いた。バスの中はいつものとおりの歌やおしゃべりで、5時間あまりの長旅も退屈することなく過ごせたようである。私はビールと冷酒が効いて途中から沈没していたが、行きたいと思っていた山行に満足して家路に着いた。(記録：松園)





蓮華草にとまったベッコウトンボ



長尾山頂上にてアスレチックを楽しむ仲間たち！



菡牟田池の朝霧 5月3日



蒲生の日本一の大楠
樹齢 1500 年